

保護者の皆様へ

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

千早赤阪村立千早小吹台小学校  
校長 當麻 裕彦

今年度の4月に実施しました標記の調査（6年生対象）の実態と課題、改善点を報告いたします。なお、本校は、人数も少なく、一人の結果の善し悪しが、すぐに結果に直結するため全体の傾向を分析しにくいという特徴があります。また、学力調査の結果は、子供たちが身につけるべき学力の一部であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものでもありません。この分析を通して児童の学力が向上しますよう、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

調査の対象  
小学校6年

調査の内容

- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A）
- ・主として「活用」に関する問題（国語B 算数B）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### 算数Aについて

○は優れているところ     △は課題を表しています。

- 計算の位取りやきまりの理解。
- 平面図を簡単な立体に置き換え。
- △ 分数の意味やしくみについての理解。
- △ 時間内に表の処理や正確な計算。

全体として、大阪府や全国平均を僅かですが上回りました。計算では「 $123 \times 52$ 」の三桁×二桁の計算や「 $10.3 + 4$ 」の数の位取り「 $6 + 0.5 \times 2$ 」の四則計算のきまりなど基礎基本は正答率が高く、基礎学力は定着しています。また、立体の展開図から示された面と平行な面を選ぶ問題では全員が正答しており、空間感覚が育っていることも見受けられます。

しかし、分数には課題も見受けられます。「 $5 \div 9$ 」の正答率が全国平均の半分を下回っています。また、無答率も高くなっています。「 $5 \div 9$ 」を言葉で考えると「5このおまんじゅうを9人で分ける」のですから、ひとり1つはもらえません。だから「 $9/5$ 」や「1と $4/5$ 」という回答はおかしいと思わなければなりません。しかし、それに

気づけないのは、考え方を自分の生活に結びつけて考えていないからだと思われます。

また、最後の簡単な記録を表を表す問題も正答率は大阪府の半分を下回っています。です。これは、合計の数が13であることや数えたものを斜線で消していくなど、間違えない工夫をする必要があります。また、最後の問題でもあり、時間が足りなかった児童も多くいたと考えられます。ふだんから、百ます計算などで時間を計って問題を解くなど、速く正確に処理する力をつけることが大切です。

## 算数 B について

○は優れているところ     △は課題を表しています。

- 文章をしっかりと読み取り、題意に沿った回答。
- 平均の意味がわかり、正確な計算。
- 百分率を割合で表すことができ、それを元にしたグラフの数値化。
- △一つの問題をいろんな考え方を用いて解く。
- △数学的な考え方の育ち。
- △自分の考え方と問題を解いていく筋道をことばや式などで表す表現力。

算数 B の問題の特徴は、「文章の読解が必要なこと。」「図や表、グラフを読み取ること。」「文章中にあるヒントを素早く理解すること。」「問題に沿った形で式と言葉で表すこと。」などが挙げられます。今年度の調査もそれに沿った形で出題されています。ほとんどが基礎基本の活用なのですが、児童には題意が読み取りにくいと考えられる問題も出題されています。

本校の成績は全体として大阪府や全国平均を少し下回っています。

「最小の満月の直径」の14%大きい「最大の満月の直径」をグラフから選ぶ問題では、一目盛りあたりの割合を把握して問題を解き、全国の平均を5ポイント以上回っています。また、「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める」問題でも全国平均を14ポイント以上、上回っており、しっかり題意を把握して問題を解くことができます。しかし、同じ平均の問題でも考え方を変えて問われた「示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題」では全国平均を下回っています。この結果から、問題を公式に当てはめて解答するだけでなく、多面的にとらえて、いろんな角度から解いていく力と自分の考え方を式や文字で表現する力の育成が必要です。

教科書も式と言葉で表す練習問題が増えているのですが、限られた時間の中で題意に沿って解くには、練習量を増やすことも必要です。また、「きまりを見つける問題」や「資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題」では、正答した児童と同じ数だけ無解答だった児童がおり、考える観点を持てる子とそうでない子の差が見られました。

## 国語 A について

○は優れているところ △は課題を表しています。

○俳句の意味の読み取り、作者の意図の理解。

○漢字の読み取り。

△文章に沿って意味を理解し、話し手の伝えたいことを理解する力。

△過去に出題された問題で課題がみられた設問にも関わらず同様の課題がみられる。

大阪府の平均を少し上回りましたが、全国平均には、僅かに届きませんでした。

A 問題は、主として知識を問う問題ですが、読解に関する問題は簡単ではなく、話や会話の要旨を把握しないと間違えやすくなる傾向が見受けられます。答えになる文字や言葉が文に含まれる時には全国平均を上回っていますが、内容の中心を正確に把握しなければならない問題では府や全国の平均を下回りました。

「手紙の後付けに必要な日付、署名、宛名の位置」を問われる問題は平成24年度に出題された問題であったのですが、そのときと同様に課題がみられました。手紙を書いたことのない児童も多いかもしれません。改善した正答率を出すことができませんでした。

しかし、小林一茶の俳句を使った問題では作者の意図や俳句の意味を読み取り、適切な解答を導き出し全国平均を10ポイント以上、上回っていました。また、漢字の読みも全てにおいて9割以上の正答率があり、漢字の書き取り問題でも府の平均をほとんど上回っています。ただ「希望」という漢字だけは正答率が悪く、無答率も高いという結果が出ました。このように既習しているにも関わらず書くことができない漢字は繰り返し学習する必要があります。

## 国語 B について

○は優れているところ △は課題を表しています。

○条件が付いても短い文であれば要約する。

○「目的や意図に応じて」書いたり、引用したりする。

△日頃の学習から文章の構成を考えたり、登場人物の相互関係と場面を把握しておくこと。

△ 時間配分を考えてテスト問題を解く。

府や全国の平均を少し下回りました。

正しい答えを出すには、「目的や意図に応じて」書いたり、整理したり、構成を考える必要があります。必要な内容を整理して書いたり、引用することはできており、府の平均を上回っています。

しかし、文章の構成を考えたり、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉える

ことには課題があります。また、「条件に応じて60字以上100字以内にまとめて書く」などの要旨をまとめる問題も字数が少ないときには正答率が高いのですが文字数が多くなると正答率が低くなります。

B問題は前のページに戻って読み返したり、必要な条件を確認したり、できた解答が題意に沿っているかなどの確認が必要です。そのため問題が少なくても時間がかかります。

本校でも時間配分が上手にできなかった児童が多いのか、問題が進むにつれて理解が不足している解答が増えています。問題文と解答用紙が分かれているテストに慣れるとともに全体の問題を見てから時間配分をするなどの工夫が必要です。また、日頃からの読書習慣をつけ、速く正確に読み取る練習もしておく必要があります。

## 今後の授業改善の取り組み

- ・ 学校全体で学力学習状況調査の結果を共有し、「学力向上・研修部」を中心に指導の充実を図っていきます。
- ・ 授業では「めあて」を明確にし、それに到達させる工夫をしていきます。
- ・ 児童が「分かった、できた」を実感できるように「まとめ」と「振り返り」を大事にします。
- ・ 「根拠」に基づいて「理由」をつけて考えたり、書いたりする場面を取り入れた授業を意識した授業改善に努めます。
- ・ 理解を助けるためのヒントカードを使うなど、一人ひとりの発達段階に応じた学習を進めます。

## 学習状況アンケートについて

- ・ 「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか。」「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか。」「朝食を毎日食べていますか。」の三項目とも全国平均を上回っており、基本的な生活習慣が身についています。これは、家庭や保護者の方々のおかげであり、本校が児童をお預かりするうえで大きな力になっています。
- ・ 「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問で「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」の割合が8割を越え、自己肯定感が高い児童が多いことが分かります。この結果は、家庭力を柱に学校・地域が連携した結果だと思っております。これからも悪いところは感情的にならずはっきり叱る。良いところは、思いっきり誉めることを継続しながら児童を育成したいと考えています。
- ・ 「学校」に対する質問で「登校するのが楽しい」「友達と会うのが楽しい」の両項目ともに全国平均を上回っており、児童同士の関係が良好な児童が多く見受けられます。嫌な思いをしている児童がいないか。寂しい気持ちを持つ児童がいないか。一人ひとりを大事にする学校であるよう努力していきます。
- ・ 「先生」に対する質問も「あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。」「授業やテストで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれていますか」の項目も大きく全国平均を上回っており、先生と児童の関係も良い方向にあるといえます。これは、児童、教師相互の努力とともにご家庭で教師の指導を肯定的に捉えていただいている結果である思います。

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問では、8割を超える児童が「あてはまる」と答えている反面、12%の児童が「あてはまらない」と答えています。本校では、仲間作りの活動や道徳など学校の教育活動全体を通じて「あてはまらない」と答えた児童にも「いじめ」に対しての理解を深め、行動できるよう努力していきます。

#### 終わりに

学校では、研究授業や公開授業、大学の教授を招聘しての指導力向上研修などで児童の思考力、判断力、表現力を高めるよう授業改善に取り組んでいきます。

ご家庭でも生活リズムを整え学習に集中でき、認め、励まし、対話のある温かい家庭環境づくりをよろしくお願いいたします。